

舵輪

財団がボランティアの魅力を

「海王丸に思いを馳せて」
常務理事 馬淵 清隆

帆船海王丸が半世紀にわたり、一〇〇人の海の若人を育ててきた練習帆船としての輝かしい航跡をつみ、夢とロマンをいつぱいのせて、本州の中央に位置する富山新港に係留され、環日本海地域交流のシンボルとして一般公開を開始してから、本年四月で十年目を迎えました。

この間に、帆船海王丸には、県内外から九十七万人の乗船者が訪れ、海王丸で開催された海洋教室は一九三回を重ね、参加児童も延べ一三八四〇人にのぼり、歴史と文化を刻んできた帆船での数々の出会いと交流が、多くの人に海へのロマンを与え、海を思いやる芽を育ててきました。

又、海王丸パークは、県世論調査では公共施設の中で、六年連続で利用率が一位にランクされるなど、港と海の賑わい空間として、子供から大人まで広く親しまれる県内有数の観光スポットとして定着してきました。

この海王丸パークでのメインイベント、最大の見所は、何と言っても現役時の勇姿を再現してみせる総帆展帆にあります。例えば、今から十年前、平成二年四月二十八日に、富山新港の北埠頭において快晴の下、立山連山を仰ぎ、総勢一七〇名のボランティアの手によって華々しく、総帆展帆が開始されました。

それから、今日まで総帆展帆は回を重ねること、九十五回、参加したボランティアは七九四八名にのぼり、帆船海王丸には、随分と多くのボランティアの皆さんの功績が新たに刻まれ、それが海王丸の魅力を引き立ててきました。

雄大な雄山、剣岳の立山連峰を背景に、見事に二十九枚の白帆を張ってみせる技は、一幅の名画を見る思いで、見る者に勇氣と活力を与え、このときほど、ボランティアの底力を実感するときはありません。

このボランティア活動も本年度から帆船海王丸を愛する皆さんの意向にそって、展帆だけでなく、見学者の船内案内など、

いろんな分野で、海王丸を支えていくことができるように活動の輪が広がることになりました。

私は、当財団においてボランティアの皆さんの意気込みをしつかりと受けとめて、帆船海王丸の事業のいろんな分野に参加できる場を提供していくことにより、ボランティア活動の魅力が一段と高まり、海王丸の魅力もいろんな角度から引き出され、利用活性化につながっていくものと考えております。

そして、このことが、ボランティア活動を通して、一般の見学者との交流が芽生え、そこから海王丸を愛する仲間の輪が広がり、地域全体に海王丸を愛する気が醸成されていくものと思えます。今日、物質がもたらした「豊かさ」に限界が見え始めたと言われています。

目前に迫った二十一世紀は、これまでのハード中心の視点に立ったシビル・ミニマムの時代に終わりをづけ、自分たちのまわりの資源を知恵を絞って活かして、心の豊かさや生きがいを求めていこうというソフト化の時代の到来です。

豊かな海をふるさとに持つ富山、そこに住む私たちには、まわりの海、港湾、そして帆船海王丸といった地域に誇れる資源や財産を舞台にして、県内外に発信できるものがいっぱいあります。

財団では、昨年度から、皆さんのボランティア活動の魅力づけや、小学校との連携による海洋教室の充実、さらには移動海洋教室の新たな取り組みなど、新しい方向を出しながら進めているところであります。

来春には、海王丸パーク周辺は、客船バースや海竜マリナーパークのメインとなる新湊公共マリナーが供用開始となり、魅力ある事業が展開できる環境が整ってききました。

財団では、来年度から新しい試みとして、これらの海事公共施設の活用を視野に入れて、富山商船高等専門学校の校外授業の一環としての海王丸の活用、湾内クルーズ等航海体験を組み合わせた海洋教室や海洋講座の充実などについて、関係機関との連携の下に進めることとしており可能な限り、知恵を絞って、心の豊かさや活力、夢とロマン

を与える事のできるベイエリアにしていきたいとの思いであります。

そして、多くの人たちに海の素晴らしさや尊さを伝え、海との関わりを考える機会を提供し、次代を担う子供たちには、海のような大きく広い心としつかりした夢をもった若者に育って欲しいと願いながら、私たち職員一同は、ボランティアの皆さんとともに、積極進取に取り組みでいきたいと考えております。

さて、いよいよ富山での秋季国民体育大会の開催期間中の十月十八日には、帆船海王丸の公開十周年を祝って、運輸省航海訓練所の練習帆船海王丸が三ヶ月にわたる北米への遠洋航海を終えて、国際帆船レースでの優勝など、航海中の数々のお土産をのせて、富山新港に入港して参ります。

現在、財団では関係機関と一体となつて、練習帆船海王丸の入港を暖かく迎える準備を進めているところです。二十三日までの六日間の滞在期間中には、親子揃っての海王丸の一般公開や総帆展帆などの記念行事を開催して、県内外の多くの方々に感動を与え、海に親しみをもってもらう機会を提供していきたいと考えています。

ボランティアの皆さんにも、帆船海王丸の総帆展帆を通して、御支援をいただきたいと思っております。

そして、これからも、帆船海王丸がきらりと光る魅力づくりのための、妙案や素晴らしい着想、アイデアがあれば財団の方にどしどし進言していただきたいと思います。

特別寄稿

「帆船海王丸 これからの一〇年に思う」
新湊市港湾課長 宮田 雅人

海王丸ボランティアの皆さん、八月六日の総帆展帆にご尽力され大変お疲れさまでした。夏の入道雲をバックに、海王丸のりりしい姿が今も脳裏から離れませんが、真つ白き帆が一段と映える悠悠しさはまさに海の王者といった感じでした。海の貴婦人に対して「王者」という表現はあまりふさわしくないかもしれませんがね。こんな光景に出会えるのも、皆さんのおかげなんだと心から感謝した次第です。

この日はまた、海洋講座が開かれ、元帆船海王丸記念財団常務理事の勝山さんの講演を聴く機会に恵まれ、帆船海王丸が日本海側で初めて係留されてからの苦悩の歴史を耳にすることができました。勝山氏の実体験に基づくユーモアを交えての話しぶりは、聞くものに説得力をもつて迫ってきました。ちよつぱり自慢話もありましたけど、先輩諸兄の語り尽くせない苦労があったからこそ、今日があるのだということを痛感しました。

さて、これまでの十年は、ボランティアの皆さんに支えられてきたといつても過言ではありません。これからの十年も皆さんに頼るところ大であると思われませんが、先の投稿でも記しましたけど、ボランティアで帆船の展帆をしているのは、世界にも例がなく、横浜と新湊だけだそうなので、これこそまちおこしの原点であり、交流がめばえる海洋文化都市を目指す新湊市にふさわしいものと言えます。

皆さんの海王丸への「愛着」がますます膨らむことを願うとともに、地元新湊市の「奮起」を期待するものです。

ところで、このほど、新湊市の国際交流員として就任したピーター・ピョーリンズ君が帆船海王丸のボランティアに参加したいと希望しておられます。素晴らしいことですね。その節は先輩ボランティアとして、快く迎えてあげてください。

第二、第三のピーター君が現れてくれることを祈っています。(次項へつづく)

舵輪

海王丸乗組員日記

業務課技術員 高橋 裕一

近年、まちおこし、まちづくりをどのよう展開するかが多方面から問われており、このことの追求こそ地方競争に打ち勝つキーポイントであると思えます。これをそこに住む人や集う人々が自分たちの課題として捉えていくことが重要であると思うのです。

これからの十年は、右肩上がりの経済成長が望めないと言われており、現在ある施設をいかに活用するかの視点をもつことが必要と考えます。あれこれと新しい施設を要望していくのもいいですが、せつかくある施設をいかにしたら有効に活用できるか知恵を絞るべきであり、そうした中で、今後、どんな施設が必要かを考えていけばよいのではないでしょう。

帆船海王丸にしても、ボランテニアの皆さんをはじめ新湊市や訪れる人々の、共通の貴重な財産」として大切に保存し、有効活用し知恵を絞っていきたいものです。これからの十年、意識を変え発想の転換を図って、帆船海王丸を見守り生かしていきたいと思います。

今から十二、三年前、私をはじめこの海王丸に乗船したばかりのことである。海王丸は塩釜から小樽へ向かって航行中、私は夜の2024時の船橋当直中でした。たまたまそのとき津軽海峡を東から西へ横断する時間に出くわし、懐かしさと時々に見る函館の夜景に、心からひたろうと思いつき船橋当直に向かおうと、ドアを開けたとたん西風の強さに、ただ驚きメルヘンな気持ちなど一瞬のうちになくなり当直に入ったのでした。

そして、四時間が過ぎて西風がおさまらず、次直と交代、そして朝08:12直の時間、船橋に入りチャートで位置を確認するや本船はまだ津軽海峡を抜けていないのです。

チャートは位置を入れた後で真っ黒、今どこに本船がいるのかわからず、西からの強風が吹くことは、特に珍しいこと

ではありません。

私は十年もの間、青函連絡船で函館から青森を数えきれないほど行き来しており、冬は大変だったことを思い出しますが、このときは四月だったので、今でも記憶に残っているのでしょうか？

北の海にはちよつとつるさいと思っ
ている ミズノマスト 高橋 裕一

係から

ボランテニア研修再び開始

帆船ボランテニアの技術向上を図り、船や海に対しより一層理解いただき、また今後新たに協力をいただく事業に向けてその養成を行うべく、去る八月二六日・二七日、標記宿泊研修を開催しました。

突然の開催予告のため、都合がつかない方が多くいらしたかと思いますが、三七名の参加者がありました。企画、準備の頃は不安の毎日でしたが、参加者や関係者の力で何とか成功に終わったものと考えます。九月一五日の日帰り研修は当日の欠席者がややあったものの二五名の参加者がありました。残念ながら参加できなかった方へは、当日塗師さんが撮影したビデオを、総帆展帆反省会等にて紹介する予定です。

今後とも計画していく考えですが、特に登壇礼の練習には多くの方に参加いただきたく、その節は奮って申し込み下さい。

運輸省練習船海王丸の寄港

- ・ 行事予定
- 一〇月一八日(水) 一〇時〇〇分 入港 (富山新港北埠頭)
- 二二日(土) セイルドリル
- 二三日(日) 一般公開
- 二三日(月) 一四時〇〇分 出港

新海王丸入港時のカッターでの歓迎について

・ 新海王丸入港の際、富山商船高等専門学校のカッターをお借りして展帆ボランテニアで出艇し、盛大に歓迎したいと思

います。日程は次のとおりです。

- 日時 一〇月一(水) 日
- 〇八時三〇分 集合
- 〇九時〇〇分 出艇

（総帆展帆日受付するところですが）
なお、事前にとつと漕練習を行いたいと思いますので入港当日参加希望の方は是非、ご出席ください。

- 練習日時 一〇月九日
- 〇九時〇〇分 集合
- 〇九時〇〇分 出艇
- 一〇時〇〇分 出艇

集合場所 日本海交流センター入り口

* 商船高専臨海実習場付近に駐車場がありませんので、自家用車での直接の乗り入れはできません。

帆船日本丸総帆展帆への参加

横浜市所有である帆船日本丸の総帆展帆に海王丸展帆ボランテニアが参加を希望した場合、先方の訓練を受講する必要があります。参加できるよう、了解を得ているところですが、現在は次のような手続き等を踏まえて参加いただいているのでお知らせします。

係（海王丸財団業務係長）を通して遅くとも一週間前には申込み願う。これ以外の場合には、昼食等の手配はできない。昼食については、展帆豊帆の両作業に参加した者に限り提供される。

先方周辺事情の変化により、マイカーで乗り付ける場合は財団経営の有料駐車場等を利用する。特別に確保していただくことは、北海道等遠方から参加している者と公平な扱いをする上で困難である。

ボランテニア係

来る十月十八日〜二十三日までの間、運輸省練習船海王丸が、伏木富山新湊地区に寄港します。これは、富山県と財団が富山新港での帆船海王丸公開十周年記念として二〇〇〇年富山国体秋季大会

開催に花を添えるために寄港を要請したものです。

この記念すべき日に、帆船海王丸クラブ（海王丸研修生OBの会）では「帆船海王丸クラブ伏木富山港の集い」を下記により開催することにしました。これは本来、新海王丸職員とクラブ会員との交流の場として開催されてはいますが、せつかくの機会ですので、参加を希望される展帆ボランテニアの方は奮ってお申し込みください。

- 日時 平成十二年十月二十三日
- 一七時〇〇分〜一八時三〇分
- 場所 海王丸パーク緑のパーゴラ (中央)
- 費用 五、〇〇〇円
- 申込先 武田 信幸

（集い幹事、海王丸クラブ会員）
一八時以降電話またはファックスにてお願いします。
TEL&FAX 0761-73-3115

展帆等イベント

- 日時 名称 気象 参加人数 ヤード等 その他
- 八月二六日(土)・二七日(日) ボランテニア宿泊研修 晴 三七名
- 九月二日(土)・三日(日) 展帆ボランテニア新規養成訓練 雨、晴 各四名
- 九月一〇日(日) ボランテニア技術講習(総帆展帆中止) 四一名
- バンド作製、船内特別区域見学、ビデオ放映等 海洋講座は次回に順延
- 九月一五日(祝) ボランテニア日帰り研修 晴 二五名
- セイル体験講習、登壇礼練習、船内案内説明講座等

あとがき

前回の展帆はあいにくの雨となり残念でした。次回一〇月一五日、二二日と続きますが、皆さん奮ってご参加ください。また、新海王丸もいよいよ入港してきます。カッターでの歓迎等予定しています。

舵輪

退任の挨拶

業務係長 鷗山 久

平成十一年四月一日、富山県に赴任し引越・搬入のさなか、娘を自転車に乗せ海王丸を見たとき、実習生当時のいろいろなことが頭の中をよぎった。当時、初代宮本船長の「雨や嵐の場合倒れるまでやり通す精神は、帆船の場合においてのみ自然によって鍛えられる」という言葉に感銘を受け、大本船長の「軟弱にあらず」という言葉を実習生の合い言葉に、仮泊日の深夜は当直士官の目を盗んでコンパスブリッジで酒を飲み海王丸船歌や練習船の歌を斉唱、僚船日本丸には決して負けないぞという船内の異様な雰囲気、何も苦にならず楽しい日々を過ごしたとき・・・

「船に乗ろう」と自分の気持ちを決定づけてくれたのが海王丸でした。

私がここで任された仕事は、日本海側の皆さんへの海事思想の普及や青少年の錬成という大きな目標がありました。自己流に言えば、「この船で海へ出てみたい」という気持ちがいっぱい一杯に「なる」というものを大切にしたいと考えていました。

ある日の海洋教室、マスト登りをしながら「海」の唄を歌っている子供たちの姿を遠くから見、なぜか涙が溢れそうになりました。

立ち上げから今日まで必死に戦ってこられた先輩諸兄の努力の結晶を、ボランティア各位の惜しみない協力により、目標に向け一歩前進できたものと考えます。

海王丸は公開一〇周年を迎え、今まで蓄積してきた力を外に発揮するときがやってきました。多くの人に愛されてきたこの船、これからはもっと多くの人に身近に感じていただける船に変わって欲しいと思います。この船を今後末永く保存・維持していくのに金や手間がかかるのは当たり前で、誘致した以上は関係者全員、死にものぐるいで運営していく必要があるでしょう。

我が船ぞ海王丸。終わりにになりましたが、不慣れた土地で支障なく仕事できたのも、周囲が気

持ちのいい方たちばかりで、自分の知らないところで支えていたのだと考えると、ありがとうございます。そして、このまたとない機会を与えていただいた航海訓練所の関係各位、こころでついでてくれた家族二人に感謝し、退任の挨拶とさせていただきます。

「せば」

業務課技術員 高橋 裕一

着任の挨拶

業務係長 寶珠山 輝生

新ボランティヤ誕生

去る一〇月一五日の総帆展帆をもって、新たに 名の展帆ボランティアが誕生したので紹介します。

(敬称略)

海王丸乗組員体験記

「初めての遠航」

業務技師 阿部 公雄

業務課技術員 月野木 浩一

K A I W O M A R U

舵輪

舵輪の物語

舵輪の物語

SPECING THE MAIN BRACE

K A I W O M A R U